

常任委員会 視察報告

平成二十五年七月二日から五日に実施した総務文教常任委員会と建設常任委員会の視察の概要を報告します。

総務文教常任委員会

《鹿児島県いちき串木野市》

さつま自然エネルギー事業

いちき串木野市は、人口約三万人。地元の中小企業が集まって再生可能エネルギー導入を呼び水としてまちづくりを行っている先進市です。工業団地の工場



串木野クリーンセンター太陽光発電所を見学

光発電パネルを敷き、電力買取制度を活用して「創エネ、省エネ、蓄エネ」による持続可能なまちづくり、スマートコミュニティの実現をめざしていました。

《福岡県筑紫野市》

子ども条例

筑紫野市は、人口約10万人。子育て支援の推進と子どもの権利擁護について、市の取り組みだけでなく、

子育て支援の推進と子どもの権利擁護について、市全体として支援していくための契機とするねらいがあります。条例では、子どもの権利が侵害されたときの相談及び救済について定めていました。

《長崎県長崎市》

ながさき暮らし推進事業

長崎市は、人口約44万人。団塊世代のUターン、I

建設常任委員会

《香川県丸亀市》 都市再生整備計画

「こんぴらさん」の名で親しまれている金刀比羅宮は、農業、漁業、医薬、技芸などさまざまな御神徳を持つ神様として古くから

全国の人々の厚い信仰を集めています。丸亀市の中心市街地には歴史資源が数多く存在しており、市のシンボルである丸亀城を核に、かつてにぎわったこんぴら街道の顕在化を図り、歴史資源を探索しながら歩いて回遊できるまちづくりを目指していました。また、平成三年に、全国でも



丸亀市のまちづくりを視察

類を見ない駅前美術館として、猪熊弦一郎現代美術館が丸亀駅前オープンしています。しかし、現代美術館、丸亀城など性格の異なる観光資源のタイアップについては今後の課題とすることでした。

《高知県高知市》

景観計画

高知市では平成八年に「都市美条例」を制定し、心安らぐ文化的で魅力ある町並みの創出、緑や水辺等の自然を生かしたゆとりと潤いのある快適なまちづくりに取り組んできました。特に高知城について、シンボル性の保全及び眺望確保により、格調高い町並みの形成に取り組んでいました。

《愛媛県宇和島市》 水道局の業務改善

宇和島市では団塊世代の大量退職による水道技術者の確保・育成が困難になったこと、給水収益減少などに危機感を抱き、さまざまな業務改善を行っています。特に浄水場の運営管理業務委託（第二期・五年間）では、年間約四千万円の人件費縮減など非常に大きな効果を上げていました。平成二十二年度に料金を値上げしましたが、さまざまな業務改善を行って、市民の理解を得ることができたことでした。また、過去五年間の料金収納率が平均九十九・八%であることにも非常に感心させられました。当市でも安全、安心な水道水供給はもちろんなこと、持続可能な水道事業を運営するために、これらの取り組みを参考にしていきたいです。

当市には現代美術館もあり、世界的に有名な建築家の設計による二施設の建設が着工されるなど、まちづくりの大きな転機を迎えており、明確なコンセプトを持つ必要性を痛感しました。